

## 連載：研究者になる！—第16回—

人間・環境学研究科・教授 山村 亜希

### ●歴史も地理も大好き。自分にぴったりの歴史地理学。

山に囲まれた中国山地の盆地で育ちました。子どもの頃から知らない土地を「探検」し、その経験をもとに頭の中で地図を作ることが大好きでした。その一方で、学校の科目として好きだったのが歴史でした。身体と頭は地理ですが、気持ちは歴史という感じでしょうか。どちらかを高校生の時点で選べなかった私が、入学後に専門を選べることから志望したのが京大の文学部でした。

受験勉強に苦勞して入った京大なのに、人間関係に当初は慣れませんでした。特に要領良く単位を取ることを自慢し、雑学王のように知識や読書量をひけらかす京大生の一部の文化に馴染めず、悩みました。そんな中、1回生の時に履修した、当時の人気授業の一つの「人文地理学」が唯一の救いでした。それは、先生の研究を基に組み立てられた歴史地理の授業で、研究とは何かを実感できる授業でした。独創的な研究者の知的営為には鳥肌が立つほどの面白さがありました。そこで、地理と歴史のどちらかを選ぶのではなく、どちらもできる歴史地理学があることを知って、京大に来てよかったと思いました。

### ●研究の苦しさ、覚悟と喜び

卒論は、著名な歴史都市であるにも関わらず、歴史地理学的研究はなされておらず、当時の研究の盲点であった鎌倉をテーマにしました。膨大な中世の記録を読み、発掘調査のデータを一つ一つ確認しながらも、それがどんな成果に結びつくのか分からず、今一つ気乗りしない作業でした。ただ、卒論提出前の最後の詰めで、無駄かも知れないと思っていた「点」と「点」の情報が繋がって、階段を駆け上がっていくような思考の上昇を経験しました。

しかし、その後の修論はとにかく苦しいだけで、出来は惨憺たるものでした。卒論はビギナーズラックだったと思い知りました。結果的に、博士1年次に、一から調査し直して、修論を一字から全て書き直したときに、卒論と同じ一筋の光明が見えました。プライドを捨てての修論の完全な書き直しは、相当の覚悟と労力が必要でした。しかし、この経験がその後に、失敗しても諦めない、再挑戦するという姿勢を作ってくれたので、無駄な経験ではなかったと確信しています。

### ●フィールドの力、過程を楽しむ心

日本の地域には歴史地理的な個性・特性があり、その土地ならではの魅力があります。研究では、その場所で歴史地理の痕跡を自ら確認し、頭の中の地図を作る

フィールドワーク（巡検）を重視しています。一見しただけでは歴史的景観が全く見えない場所であっても、頭の中に作られる今と過去を結ぶ地図の断片は必ず研究のヒントになります。自分の目で見て、聞いて、感じて学ぶ巡検は、常に新しい発見に満ちています。特に学生達とともにわいわいと勝手な推論を交わしながらの各地の巡検は、私自身も本当に楽しいです。

研究は成果ではなく、過程だと思っています。私は要領が悪い上に、過程を楽しむ気質が強くて、喫緊の論文に直接結びつかないことが薄々分かっているにもかかわらず、まずは着手します。最初にうじうじ悩むよりも、たとえ無駄になっても前進する姿勢だけは、指導教員に褒められました（笑）。そして、往々にして締め切りまでの時間が不足する、焦る、失敗するという結果になることに。ただ、その時は使えなかった情報や知識も自分の血となり肉となって、必ず後から自分に戻ってくるので、過程を楽しむ心はやめられません。

### ●バランスを取ることの難しさ

最近では、介護が必要な高齢の母に時間を割くことが多くなりました。母という時間は自分の存在意義をそこで感じ、もっと時間を割きたいと思います。一方で、研究は確かに好きなことではありますが、反面、追い詰められた時の逃げ場のなさは苦しいです。研究とそれ以外の生活とのバランスの悪さは、今でも解消できていません。

そんなときに思い出すのは、学生時代の「人文地理学」の高揚感です。あの時の私のようなキラキラした目で今の私の授業を受けてくれる学生達や、一緒に行ったフィールドで盛り上がる学生達を見ると、地理学の面白さ・意義を大学という場で伝えることの励みになります。研究のみならず、人生に無駄な経験は一つもありません。目の前の人とともに真摯に向き合うことを、日々心がけたいと思っています。

### 編集後記

3月は年度末で待機乳児は退所となり、4月に顔ぶれが一新します。少し寂しさもありますが、春の新しい出会いにワクワクしています。センター玄関横の花たちもきれいに咲き始め、みなさんを出迎えます。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/